

子どもの主体を起こす読み優先の漢字教育研究会 まとめ

2021.7.25(日)13:00～17:00

【全体の流れ】

1 上野から基調報告

日本の漢字教育で石井式というものがあつた事、この教材の特徴と教材全体についての説明を行う

2 実践報告

3 補足のロールプレイ

・井上から

この「子どもの主体を起こす漢字教育」のねらいは、「一対一の対等な関係性」と「主体が起きる」事が表裏の関係であり、そこに注意を払つて実践して欲しい事の話

★各実践詳細報告

1 伊藤T報告 市原小6年 15名

□1学期取り組んだ教材

漢字音読名人・一日一漢字・書き名人・漢字ドリル名人・漢字小テスト

・今年度は市販のドリルを買わず漢字指導を行うことを学級通信で周知した。

□取組時間

・掃除終了後の10分間のわくわくタイム

漢字音読名人：5分 一日一漢字：5分

■漢字音読名人

○プラス面の評価

・5年からやっていたので、スムーズに入れた。子どもたちは喜んでやった。

・1学期末で、2学期の漢字に進んだ子が2名いた

・「なあ、やろう」「聞いて」と男の子女の子関係無くやっていたのはすごくよかった。

●マイナス面の評価

・継続していると単調になり、意欲の継続が難しかった。

☆改善案

「どこまで進んだ？」と教師のチェックも必要かと思った。

■一日一漢字

○プラス面の評価

・担当を決めて、子どもに進行させた。教師が進行するより、集中して聞き、配慮の

必要な子ども全員が取り組めたのが良かった。

- ・「神様にまつわることが多いなあ」「死者がまた出てきた、怖いな。」など、漢字のなりたちに興味を持ち、漢字辞典で調べる子どもも出てきた。
- ・2学期からは支援学級の子も一緒にやってみようと思っている。

#### ●マイナス面の評価

- ・学期配当の漢字は94字。1日2漢字でないと指導しきれない。
- ・漢字音読名人・1日2漢字だと10分で終わらない。

#### ☆改善案

1日2漢字の場合、午前で1字、午後で1字と、分けて指導する。その方が理解・定着度は上がる。(スキルタイムと国語の時間でそれぞれ1字ずつというやり方もできる。)

#### ■漢字書き名人

- ・表面の上半分までは学校 下段の書き練習、裏面の創作文は家庭学習。翌日子ども同士で○つけをして提出。

#### ○プラス面の評価

- ・宿題でやらせたが、他の宿題忘れはあっても、このプリントだけは誰も忘れなかった。
- ・創作文作りはとても意欲的だった。音訓両方使う文を考えたり、長文を書いたりしていた。
- ・一日2漢字で進めたので7月10日頃に1学期の漢字は終わった。子どもたちが「2学期の漢字もやろう」というので、10字ぐらい進んだ。子どもたちは「1日1個の方が余裕があって覚えやすい。」という。2学期は60字余りなので、1日1漢字でやっていきたい。

#### ●マイナス面の評価

- ・一日2漢字のペースだと、單元ごとのテストより遅れてしまうので困った。
- ・家庭学習に任せていたので、雑になる子どももある。丁寧さが必要だと思う。

#### ☆改善案

- ・表面の練習欄が雑になる一因……とにかく書いて埋めればOKという感覚か。きちんと上半分を折り、ひらがな文だけ見て書くというルールを徹底させること。その理由は、「書きたいことは、漢字交じり文で書く」という力を育てるため。文章を書く時に、まず書く内容を頭に浮かべ(ひらがな文の内容)、それを書く時は漢字交じり文で書くという基本の力をつけておかないと、本当の意味で漢字が使いこなせない。

## ■漢字ドリル名人

3	2	1
並	視	盛
1 黄色くなつたイチヨウの並木。	1 視力の検査を受ける。	1 筋肉が盛り上がり上がっている。
2 電車と並行してバスが走る。	2 視力の検査を受ける。	2 桜は今が盛りです。
3 会議のために机を並べる。	3 人々のつながりを重視する。	3 結婚式が盛大に開かれる。

漢字ドリル名人 □ (No.1~No.5)

## ■小テスト

漢字小テストI (No.1~5)

5	4	3	2	1
満まく湖のながれ。	さ丘てとてつを 探した。	かいぎのために机をならべる。	してんの 遠いにちやくもくしてよむ。	筋にくが もりあがつている。

- ・ 4～5月は週末の宿題として漢字ドリル名人をやらせていた。15文あるので負担に感じる子どももいたので6月からは3文ずつにした。

### ●マイナス面の評価

一日2枚の書き名人に加えて漢字ドリル名人練習は結構負担だったので小テストは途中でやめた。

### ☆改善案

- ・ 小テストは、問題用紙を教室に貼っておき、宿題でやらせる。
- ・ 漢字ドリルは自主学でやる子が多かったので、自主学としてやらせる。

## ■1学期の評価

### ○プラス面の評価

1学期まとめの50問テストは平均78点だった。配慮の必要な子が10、20点台、もう1人が50点台だった以外は80～100点だった。

50問テストの対策プリントは一切していない。普段の漢字学習と、子どもたちの自主学習のみ。練習量はそれほど多くないのにこの成績は驚きだった。

50問テストは、全員が2回受ける。2回目は、空いているスペースに問題の解答である漢字を使った熟語を書けば、点をプラスするというのでやった。(土居正博氏の手法)その結果、一学期の最後の50問テストでは、配慮を必要とする子2人をのぞき全員100点以上で最高は274点。みんな大喜びだった。

当初あった、市販のドリルを買わないでやるという不安は無くなった。

2学期は、この二人に何とか漢字が読める、書ける喜びを感じさせたいと思っている。

## 2. 古川T報告 (五個荘小4年)

### ■漢字音読名人

- ・ 給食の待ち時間にやっている。クラスによっては、中休みの「手洗いタイム」(コロナ対策で手を洗った後、静かに座っている時間)にやっている。

#### ○プラス面の評価

- ・子どもたちはとても喜んで取り組んでいた。
- ・特支の子も含めて取り組んでいるのがとてもいい。((知)(自・情)とも)  
特支でも練習しているので、クラスの子よりよく読めることもあり、周りの子から「読めてるやん！」と評価されることもある。
- ・6月頃、中だるみの時期があったが、すでに1学期を終えている子もあり、「終わっている子は○人」と貼りだしたらやる気になったり、進んでいる子が「あんたも頑張り」とハッパをかけてくれたりして、みんな楽しく取り組めた。
- ・7月に2学期の音読名人を配ったら、「もう終わった！」という子も9人いる。
- ・桐原東小では、友達同士で6個合格したら、教師がハンコを押してやるという形にしている。するとやりたい子がどんどん増えている。
- ・友達との関わりがうまく持てない子が3人いるが、周りの子が漢字音読名人を聞き合うという活動に引き込んでくれている。

### ■一日一漢字

#### ○プラス面の評価

- ・漢字に興味を持つ子が増えた。「祈りに関することが多いなあ」など、漢字を話題に会話ができるようになってきた。「今日は何の字」と聞いてきたり、漢字辞典にも興味を持つようになった。

#### ●マイナス面の評価

- ・朝の5分ほどある学習時間で一日一漢字。すごくあわただしい。
- ・6月末には1学期の漢字を終わらせて評価したいと思う担任もあり、一日3つということもある。
- ・無理なくやるにはどうしたらよいかと悩んでいる。

#### ☆改善案

- ・2学期の負担を減らせるように、漢字も先取りして指導している。
- ・**時間確保の方策**
  - ・国語の時間か、手洗いタイム(15分)を充てる。
  - ・15分あれば、一日2漢字はできる。

### ■漢字書き名人

- ・中休みの「手洗いタイム」を利用して、書き名人の表をやっている。  
裏面は家庭学習。

#### ○プラス面の評価

- ・家庭環境等で、家庭学習が十分できない子には「チャレンジ欄だけはやってきて」と言っている。そこは、どの子も楽しくやっている。宿題を嫌がる子も、おうちの人と一緒に考えたりして遅れてでも提出してくる。

- ・ 創作文を掲示してやると、「今度は私のを掲示して」と言って一生懸命書いてきたり、友達同士の会話も弾むようになってきたりして、友達関係がすごく良くなった。

#### ● マイナス面の評価

- ・ 全体として、少し量が多い感じがする。(桐原小)

#### ☆ 改善案

- ・ 学校で上半分の読みまでをきちんとやっておけば、家庭学習の負担感は軽減する。

### ■ 漢字ドリル名人

#### ○ プラス面の評価

- ・ 学力の高い子にとっては、何度も練習したいということで、自主勉強の材料として有効だった。
- ・ 週末(土)(日)の自主勉強として活用するのが良いのではないかと。

### ■ 1学期の取組の評価

#### ○ プラス面の評価

- ・ 家庭的に厳しい、あるいは不登校傾向、知的課題のある子が29名中10名いる学級で、事前の指導なしに行ったまとめのテストの結果はクラス平均56点だった。

ただ、間違いもはね、線の長さの違いというものが多く、「あ、こんな間違いか」ということで、一回の再テストで、家庭環境的に厳しい6名の子以外は全員90点以上で合格した。

#### ★ 井上コメント

- ・ 教師の負担を考えると、50問テストのように到達度を測定する場合は別にして、その時々小テストで「きちんと書けるようになっているか」まで教師がチェックすることは必要ではないと考える。小テストは、子ども自身に自分の到達度を知ってもらうのが狙いであり、子ども同士の採点で十分ではないかと。
- それより、書き名人そのものをきちんとやりきらせることに集中させたい。ちゃんとイメージをもって文が書ける、友達同士で創作文を交流しあうということ。仮に、その時覚えられていなくても、書き名人はおのずと復習が繰り返されるようになっているのだから、覚えていく。

### 3. 深田T 坂本小6年

#### ● マイナス面の評価

- ・ 坂本小は全校15学級、特支3学級も入れて全校で取り組んでいる。
- ・ 初めて取り組む先生達にこれらの教材で大事にしたいことは対一の関係性を育むこ

とということを説明したが、ハウツーの部分だけが伝わってしまった。

## ■漢字音読名人

### ☆改善案

- ・3回チェックを終わらせねばならないと考えて、読みの苦手な子たちがしんどい思いをしてしまうということが最初あった。  
「1回合格で進めてもいいですよ。」「音読名人を家庭学習にも入れて、チェックの1回はおうちの人にしてもらったらいい。」と助言したら、1学期末には、どの学級もスムーズに取り組めるようになった。
- ・「読める」だけが先行して、「意味理解」が不十分になっているのが課題。例えば「出納帳（すいとうちょう）」と読めても意味は分かっていない。「一日一漢字」の時に、漢字音読名人も一緒に読んで、意味をきちんと理解させるということを2学期には試してみたい。

## ■漢字書き名人

### ●マイナス面の評価

- ・子ども同士のチェックを大事にしているが、子どもに任せられず、自分がチェックしないといけないと思う教師が多い。だからチェックするのをとても負担に感じている。

### ☆改善案

- ・「表面は自分で○をつける」として子どもに委ねてしまう。教師は裏の3つとチャレンジ欄だけをチェックする。間違っているところは、四角で囲むか赤ペンを入れ、付箋をつけて返す。どれが間違っていたかを見ればそれでいい。アバウトで完璧を目指さない方が、長続きするし、子どもも嫌いにならない。
- ・3年生からは縦線の練習欄だが、マス目の方が練習しやすい。
- ・2年生の場合、漢字があまり出てこない  
1～3年生は、1回は文を書き、残りは、新出漢字の部分だけを練習するという形にしてはどうか。
- ・書き名人だけでは、なかなか点数が上がらないと感じる教師がいる。  
書き名人のねらいは漢字交じり文への習熟であり、これで完璧をめざすものではないから、市販テストへの対応は別にやればよいと考えた。50問テストの前に新出漢字・熟語の一覧を作って練習させるということをした。それでクリアできればいいと割り切って考えればよい。

## ■漢字ドリル名人

### ●マイナス面の評価

- ・させねばならないという感覚になってしまっている。

### ☆改善案

- ・15文のうち、テストに出る文に○つけて練習させる学年もある

#### ■小テスト

- ・教科書の単元ごとになっていない
- ・採点、再テスト等、教師の負担がとても重い。

#### ☆改善案

- ・隣同士で○つけをして確認しあうということがいい。

#### ■取組の成果

##### ○プラス面の評価

- ・文が読めるようになった。
- ・読書量が増え、算数の文章問題がよくできるようになったという実感がある。
- ・5年生最初の頃文章がとてもへただった。それが書けるようになった。そのポイントはチャレンジ欄の活用。漢字を使うことに加え、接続詞（しかし、例えば等）を指定してそれを使った文を書くということした。それを負担に思う子は無く、いろいろ工夫して書いてきた。

##### ・学・学テストの結果

国語も算数も平均が70点前後。滋賀県の平均点が国語58点。算数60点。坂本小は困難校で、毎年、県平均を下回っていたが、上回る結果を出している。文章を書けるようになったことは大きい。

- ・どの子どもも学習に前向きに取り組む姿が見られた。1学期の個別懇で子どもの意欲を実感している保護者が多かった。この教材で、子どもたちの主体が起きていることが学習全体に前向きに取り組む姿勢につながっている。

#### 4. 少徳T報告(蒲生北小)

- ・全校で、毎日のスキルアップタイム（3校時前の10分間）と国語の授業始め5～10分間を、読み優先漢字教材の時間に設定

##### 【学年ごとの工夫】

**2年生**：毎日帰りの会で、その日の宿題の書き名人のプリントが正しく書けるかチェックをした。

**3年生**：50問テストで、その漢字を使った熟語が書けたらプラス1点。最高190点。子ども達は意欲的に覚えた。

**4年生**：読み優先教材を徹底的に活用。音読の宿題にも活用。漢字テストは問題用紙を教室後ろに掲示し、問題を見たい人は見る。

50問テストは問題を公開しない。書き名人の裏を使っ各自復習することで50問テストの勉強をさせた。→担任の想像以上の得点  
夏休みの宿題でも書き名人（チャレンジ欄）を活用する

### 【1 学期末の担任の感想】

- ・ **2 年生** : 書き名人はとても大変だった。支援の必要な子に、他の子と同じペースでやりきらせることが難しかった。  
力がついたので心配だったが、学期末の 25 問テストの際、多くの子どもが「小テストに比べてとても簡単だ」と言った。得点もそう悪くはなかった。書き名人と小テストはレベルが高く大変だが、やりきることで漢字の力はついたのである。子ども達も担任も頑張った。ただ、大変だった。
- ・ **3 年生** : 音読名人は、読むことが得意になり、読める漢字が増えた。  
書き名人は、語句が増えたことにより、1 つの語句を集中して取り組むよりも幅広い活用が知れた。逆に、語句が増えたことにより、正確な漢字の一つひとつが定着していない感がある。定着させるには取り組む時間を増やす必要があるが、現実的には厳しい。  
また、教材のテストとリンクしていないため、子ども達に出来た感が薄い。
- ・ **4 年生** : 読み問題の正答率が上がった。教科書もすらすら読める。市販のテストとのつながりが課題。新出漢字を進めるペースが課題。
- ・ **5 年生** : 自主学習に活用した。文章や熟語も練習する子が増えた。  
文章を練習する中で、前の学年の漢字も確認しながら学習出来た。逆に、マスに入りきらない子がいたり筆順が分かりにくかったこと、小テストの点数がなかなか上がらない子に困った。
- ・ **6 年生** : 小テストでは 5 年生までの漢字も出るので 1 年生～ 5 年生の漢字の復習ができた。逆に 1 つの漢字に対して 3 文あったため、低位の子はしんどそうだった。1 つの使い方が確実に書けるようになってから、2 つ目 3 つ目としていった方が良かったと思った。  
(読みはたくさんの読み方を知るのは良かったが、書きまでとなるとしんどい)  
また、教師の丸付けの時の手間が多い。とても時間がかかる。  
また、6 年生は 9 4 文字あったので、大変だった。1 年を通して学べばいいといわれるが、復習などのことを考えればそういうわけにはいかない。  
個人的には、市販の漢字ドリルでも、読みから書きの学習はできると思った。

## 5. 秦荘東小 (堀 T 報告)

### ■ 漢字音読名人

- ・ 昨年度は漢字音読名人に取り組んで顕著な成果があった。  
今年は一日一漢字・書き名人にも取り組もうということで始めたが、そのノルマをこなすことに精一杯となり、漢字音読名人の取組が不十分になってしまった。
- ・ 紙媒体からタブレットに変えたが、それで特にやりにくいということは無いのだが、

タブレットを持ち帰れないため、家庭での練習ができなくなったのは残念。

### ■漢字書き名人

- ・書き名人に移るところをどう改善するか、が課題。

## 1学期の実践から見えた成果と改善案【まとめ】

### 1 漢字音読名人

#### ○プラス面の評価

「漢字音読名人」は、「漢字が読めるようなる」ということとともに、「子どもの主体が起き、子ども同士の一対一の関係を深め、集団への所属感が高まる。」という価値を再確認した。

- ・読み問題の正答率が上がった。教科書もすらすら読める。
- ・「なあ、やろう」「聞いて」と男の子の子関係無くやっていたのはすごくよかった。
- ・特支の子も含めて取り組んでいるのがとてもいい。(知)(自・情)とも  
特支でも練習しているので、クラスの子よりよく読めることもあり、周りの子から「読めてるやん！」と評価されることもある。
- ・友達との関わりがうまく持てない子が3人いるが、周りの子が漢字音読名人を聞き合うという活動に引き込んでくれている。

#### ●マイナス面の評価

- ・一日一漢字にも取り組むようになると、漢字音読名人に時間が取れなくなる。

#### ☆改善案

##### ○取組時間の確保

- ・3～5分の短時間は固定枠として確保する。
- ・中休み、給食の待ち時間、授業時間の合間なども、子どもたちが自由に聞き合う動きを作っていく。
- ・家庭学習の音読練習として「漢字音読名人」に取り組みせる。

#### ●マイナス面の評価

- ・「読める」だけが先行して、「意味理解」が不十分になっているのが課題。例えば「出納帳(すいとうちょう)」と読めても意味は分かっていない。

#### ☆改善案

- ・「一日一漢字」の時に、漢字音読名人も一緒に読んで、意味をきちんと理解させる

#### ●マイナス面の評価

- ・とちゅうで中だるみ状態になり、意欲が停滞する。

#### ☆改善案

##### ①子ども同士の励まし合い

- ・6月頃、中だるみの時期があったが、すでに1学期を終えている子もあり、「終

わっている子は〇人」と貼りだしたらやる気になったり、進んでいる子が「あんなも頑張り」とハッパをかけてくれたりして、みんな楽しく取り組めた。

②子どもが具体的に実感できる教師の評価

- ・友達同士で6個合格したら、教師がハンコを押してやるという形にするとやりたい子がどんどん増えている。

③一回合格進級方式

- ・「3人の友達から合格のサインをもらったら次に進む」では、読みの苦手な子は意欲が出ない。「1回合格がもらえたら、次に進んでいいよ」とハードルを下げ、どんどん進ませる。そして、終わりまで行ったら「2周目」、さらに「3周目」という形で読みに習熟させる。

## 2 一日一漢字

### ○プラス面の評価

子ども達の漢字への興味関心を高める教材として、有効に働く。

- ・「神様にまつわることが多いなあ」「死者がまた出てきた、怖いな。」など、漢字のなりたちに興味を持ち、漢字辞典で調べる子も出てきた。
- ・漢字に興味を持つ子が増えた。「祈りに関することが多いなあ」など、漢字を話題に会話ができるようになってきた。「今日は何の字」と聞いてきたり、漢字辞典にも興味を持つようになった。
- ・支援学級の子も一緒に学習できる教材になっている。

### ●マイナス面の評価

- ・一日に1漢字では、とても配当漢字を指導しきれない。

- ・1学期配当の漢字は94字。1日2漢字でないと指導しきれない。
- ・6月末には1学期の漢字を終わらせて評価したいと思う担任もあり、一日3つということもある。
- ・6年生は1日3～4漢字というペースにならざるをえなかった。

### ☆改善案

#### ①スキルタイムの確保

- ・スキルタイム15分を「漢字音読名人（3～5分）」「一日一漢字」（10～12分）」として指導時間を確保する。

#### ②国語の時間も活用

- ・一日に複数の漢字を指導する場合は、スキルタイムと時間を分け、国語の時間に残りを指導する、という形にした方が定着度は高まる。

元々新出漢字の指導は国語の時間にやっていたのだから、特に国語の時間を圧迫するという事にはならないはず

●マイナス面の評価

- ・1日2漢字のペースでも、市販のテストに間に合わない。

☆改善案

- ・指導していない漢字の部分は、残しておき、学習が済んだ段階でやらせる。  
(保護者にも理由をきちんと説明すれば、了解してもらえるはず)

### 3 漢字書き名人

【評価】

○プラス面の評価

- ・宿題でやらせたが、他の宿題忘れはあっても、このプリントだけは誰も忘れなかった。
- ・創作文作りはとても意欲的だった。音訓両方使う文を考えたり、長文を書いたりしていた。
- ・家庭環境等で、家庭学習が十分できない子には「チャレンジ欄だけはやってきて」と言っている。そこは、どの子も楽しくやっている。宿題を嫌がる子も、おうちの人と一緒に考えたりして遅れてでも提出してくる。
- ・創作文を掲示してやると、「今度は私のを掲示して」と言って一生懸命書いてきたり、友達同士の会話も弾むようになってきたりして、友達関係がすごく良くなった。
- ・5年生最初の頃は文章がとてもへただった。それが書けるようになった。そのポイントはチャレンジ欄の活用。漢字を使うことに加え、接続詞（しかし、例えば等）を指定してそれを使った文を書くということした。それを負担に思う子は無く、いろいろ工夫して書いてきた。

●マイナス面の評価

- ・支援の必要な子に、他の子と同じペースでやりきらせることが難しかった。
- ・教材のテストとリンクしていないため、子ども達に出来た感が薄い。
- ・（書かせる）語句が増えたことにより、正確な漢字の一つひとつが定着していない感がある。
- ・教師の丸付けの時の手間が多い。とても時間がかかる。
- ・自分がチェックしないといけないと思う教師が多い。だからチェックするのをとても負担に感じている。
- ・3年生からは縦線の練習欄だが、マス目の方が練習しやすい。漢字ノートに書かせる形に変更した。
- ・2年生の場合、漢字があまり出てこない。ひらがな練習しているようで肝心の漢字練習ができない。
- ・2年生では、どれを漢字に直すのかが分からなくて混乱してしまう。

・書き名人はレベルが高く、大変。

☆改善案

② 上半分は学校での「一日一漢字」の時にやってしまう。

そうすれば、家庭では下半分の書き練習だけやれば良い。

①教材の修正

低学年では、漢字で書く言葉の部分を枠でしめす。苦手な子はその言葉が書けたら OK。書ける子は文全体を書く。

中学年以上も、漢字で書くべき言葉の部分に傍線を入れて明示する。

②表面は自己チェック

上の文と照らし合わせ、自分で○、修正させる。教師のチェックは不要になる。

③裏面は「チャレンジ」欄だけにする。

「うでだめし」は、復習の時間を取ったときにやることにして、毎日の家庭学習は「創作文づくり」に集中させる。創作文作りの中で当該漢字を使って書く練習は、子どもの主体が起き、自分の生活体験・イメージを想起させて書く活動なので、短時間で濃密な書き練習になる。

The image displays several educational materials for the character '友' (friend). At the top right, there is a large character '友' with stroke order arrows and a small illustration of children. Below it is a grid with the sentence: 'とも達とむしつかみ。クラスのとも達は級ゆう。さんにんのゆうじんがいる。' (1.とも達とむしつかみ。 2.クラスのとも達は級ゆう。 3.さんにんのゆうじんがいる。). To the left of this grid is a 'チャレンジ' (Challenge) section with a 'うでだめし' (Ude-dameshi) section for self-checking. Below the grid is another grid with the same sentence. At the bottom right, there is a 'チャレンジ' section with a 'うでだめし' section for self-checking. The materials are designed to help students practice writing the character and the sentence in a structured and engaging way.

#### 4 小テスト

##### ●マイナス面の評価

- ・難しい。教師の手間が大変。

- ・満点が取れない
- ・一日2枚の書き名人に加えて漢字ドリル名人練習は結構負担だったので小テストは途中でやめた。
- ・小テストでは5年生までの漢字も出るので1年生～5年生の漢字の復習ができた。逆に1つの漢字に対して3文あったため、低位の子はしんどそうだった。
- ・教科書の单元ごとになっていないのでできた感が薄い。
- ・教師の丸付けの時の手間が多い。とても時間がかかる。

漢字小テストI (No.1～5)

(名前)				
5	4	3	2	1
満 <small>み</small> ちく <small>ち</small> 湖 <small>こ</small> の <small>の</small> ながれ <small>ながれ</small>	さ <small>さ</small> く <small>く</small> ら <small>ら</small> は <small>は</small> いま <small>いま</small> が <small>が</small> さ <small>さ</small> かり <small>かり</small> です <small>です</small>	かい <small>かい</small> ぎ <small>ぎ</small> の <small>の</small> た <small>た</small> め <small>め</small> に <small>に</small> 「 <small>「</small> 机 <small>机</small> 」 <small>」</small> を <small>を</small> なら <small>なら</small> べ <small>べ</small> る <small>る</small>	し <small>し</small> て <small>て</small> ん <small>ん</small> の <small>の</small> 違 <small>違</small> い <small>い</small> に <small>に</small> ち <small>ち</small> やく <small>やく</small> も <small>も</small> く <small>く</small> して <small>して</small> よ <small>よ</small> む <small>む</small>	筋 <small>筋</small> に <small>に</small> く <small>く</small> が <small>が</small> も <small>も</small> り <small>り</small> あ <small>あ</small> が <small>が</small> つ <small>つ</small> て <small>て</small> い <small>い</small> る <small>る</small>

##### ☆改善案

- ・小テストは、問題用紙を教室に貼っておき、宿題でやらせる。そうすれば、ピンポイントの簡潔な練習で済む。
- ・隣同士で○つけをして確認しあうということで済ませる。  
繰り返し復習の機会があると考え、子どもに委ねて教師がチェックしなければならぬと考えない。小テストの結果を見て、多くの子が間違えているところや、子ども同士のチェックでは見逃してしまう部分を取り上げ、全体指導すればよい。

#### 5 漢字ドリル名人

3	2	1
並	視	盛
3 2 1 黄 <small>黄</small> 色 <small>色</small> く <small>く</small> な <small>な</small> った <small>た</small> イ <small>イ</small> チ <small>チ</small> ヨ <small>ヨ</small> ウ <small>ウ</small> の <small>の</small> 並 <small>並</small> 木 <small>木</small>	3 2 1 電 <small>電</small> 車 <small>車</small> と <small>と</small> 並 <small>並</small> 行 <small>行</small> し <small>し</small> て <small>て</small> バ <small>バ</small> ス <small>ス</small> が <small>が</small> 走 <small>走</small> る <small>る</small>	3 2 1 会 <small>会</small> 議 <small>議</small> の <small>の</small> 違 <small>違</small> い <small>い</small> に <small>に</small> 着 <small>着</small> 目 <small>目</small> し <small>し</small> て <small>て</small> 読 <small>読</small> む <small>む</small>
	3 2 1 視 <small>視</small> 点 <small>点</small> の <small>の</small> 違 <small>違</small> い <small>い</small> に <small>に</small> 着 <small>着</small> 目 <small>目</small> し <small>し</small> て <small>て</small> 読 <small>読</small> む <small>む</small>	3 2 1 人 <small>人</small> 々 <small>々</small> の <small>の</small> つ <small>つ</small> な <small>な</small> が <small>が</small> り <small>り</small> を <small>を</small> 重 <small>重</small> 視 <small>視</small> す <small>す</small>
	3 2 1 視 <small>視</small> 力 <small>力</small> の <small>の</small> 検 <small>検</small> 査 <small>査</small> を <small>を</small> 受 <small>受</small> け <small>け</small> る <small>る</small>	3 2 1 結 <small>結</small> 婚 <small>婚</small> 式 <small>式</small> が <small>が</small> 盛 <small>盛</small> 大 <small>大</small> に <small>に</small> 開 <small>開</small> か <small>か</small> れる <small>る</small>
	3 2 1 筋 <small>筋</small> 肉 <small>肉</small> が <small>が</small> 盛 <small>盛</small> り <small>り</small> 上 <small>上</small> が <small>が</small> つ <small>つ</small> て <small>て</small> い <small>い</small> る <small>る</small>	3 2 1 桜 <small>桜</small> は <small>は</small> 今 <small>今</small> が <small>が</small> 盛 <small>盛</small> り <small>り</small> です <small>です</small>

5	4	3	2	1
3 2 1 ま <small>ま</small> さ <small>さ</small> も <small>も</small> の <small>の</small> い <small>い</small> っ <small>っ</small> か <small>か</small> ん <small>ん</small> め <small>め</small> を <small>を</small> よ <small>よ</small> む <small>む</small>	3 2 1 満 <small>満</small> ち <small>ち</small> く <small>く</small> 湖 <small>湖</small> の <small>の</small> ながれ <small>ながれ</small>	3 2 1 たい <small>たい</small> ふう <small>ふう</small> で <small>で</small> ど <small>ど</small> し <small>し</small> や <small>や</small> 解 <small>解</small> れ <small>れ</small> が <small>が</small> お <small>お</small> きた <small>きた</small>	3 2 1 さ <small>さ</small> い <small>い</small> ご <small>ご</small> で <small>で</small> さ <small>さ</small> て <small>て</small> つ <small>つ</small> を <small>を</small> 探 <small>探</small> した <small>した</small>	3 2 1 う <small>う</small> ん <small>ん</small> ど <small>ど</small> う <small>う</small> じ <small>じ</small> ょう <small>じょう</small> に <small>に</small> 舞 <small>舞</small> う <small>う</small> す <small>す</small> な <small>な</small> ほ <small>ほ</small> こ <small>こ</small> り <small>り</small>
	3 2 1 か <small>か</small> い <small>い</small> ぎ <small>ぎ</small> の <small>の</small> た <small>た</small> め <small>め</small> に <small>に</small> 「 <small>「</small> 机 <small>机</small> 」 <small>」</small> を <small>を</small> なら <small>なら</small> べ <small>べ</small> る <small>る</small>	3 2 1 で <small>で</small> ん <small>ん</small> じ <small>じ</small> ゃ <small>ゃ</small> と <small>と</small> へ <small>へ</small> い <small>い</small> ご <small>ご</small> う <small>う</small> し <small>し</small> て <small>て</small> バ <small>バ</small> ス <small>ス</small> が <small>が</small> は <small>は</small> し <small>し</small> る <small>る</small>	3 2 1 し <small>し</small> り <small>り</small> よ <small>よ</small> く <small>く</small> けん <small>けん</small> さ <small>さ</small> き <small>き</small> う <small>う</small> け <small>け</small> る <small>る</small>	3 2 1 ひ <small>ひ</small> と <small>と</small> の <small>の</small> つ <small>つ</small> な <small>な</small> が <small>が</small> り <small>り</small> を <small>を</small> じ <small>じ</small> ゅう <small>ゅう</small> し <small>し</small> する <small>する</small>
	3 2 1 し <small>し</small> て <small>て</small> ん <small>ん</small> の <small>の</small> 違 <small>違</small> い <small>い</small> に <small>に</small> ち <small>ち</small> やく <small>やく</small> も <small>も</small> く <small>く</small> して <small>して</small> よ <small>よ</small> む <small>む</small>	3 2 1 け <small>け</small> つ <small>つ</small> 離 <small>離</small> し <small>し</small> き <small>き</small> が <small>が</small> せ <small>せ</small> い <small>い</small> だ <small>だ</small> い <small>い</small> に <small>に</small> ひ <small>ひ</small> ら <small>ら</small> か <small>か</small> れる <small>る</small>	3 2 1 さ <small>さ</small> く <small>く</small> ら <small>ら</small> は <small>は</small> い <small>い</small> ま <small>ま</small> が <small>が</small> さ <small>さ</small> かり <small>かり</small> です <small>です</small>	3 2 1 筋 <small>筋</small> に <small>に</small> く <small>く</small> が <small>が</small> も <small>も</small> り <small>り</small> あ <small>あ</small> が <small>が</small> つ <small>つ</small> て <small>て</small> い <small>い</small> る <small>る</small>

##### ●マイナス面の評価

- ・低位の子どもの負担感重い。

- ・4～5月は週末の宿題として漢字ドリル名人をやらせていた。15文あるので負担に感じる子どももいたので6月からは3文ずつにした。
- ・学力の高い子にとっては、何度も練習したいということで、自主勉強の材料として有効だった。

- ・させねばならないという感覚になってしまっている。
- ・15文のうち、テストに出る文に○つけて練習させる学年もある。

#### ☆改善案

- ・漢字ドリルは自主学としてやらせる。全員に課すものとしないうこと。

## 6 取組全体の評価

### ○プラス面の評価

- ・子どもたちの学力は確実に上がった。

- ・学期末の25問テストの際、多くの子どもが「小テストに比べてとても簡単だ」と言った。得点もそう悪くはなかった。やりきることで漢字の力はついたのかも。
- ・50問テストで、その漢字を使った熟語が書けたらプラス1点。最高190点。子ども達は意欲的に覚えた。
- ・50問テストは問題を公開しない。書き名人の裏を使っ各自復習することで50問テストの勉強をさせた。→担任の想像以上の得点。
- ・学・学テストの結果、国語も算数も平均が70点前後。滋賀県の平均点が国語58点。算数60点。坂本小は困難校で、毎年、県平均を下回っていたが、上回る結果を出している。文章を書けるようになったことは大きい。
- ・読書量が増え、算数の文章問題がよくできるようになったという実感がある。
- ・家庭的に厳しい、あるいは不登校傾向、知的課題のある子が29名中10名いる学級で、事前の指導なしに行ったまとめのテストの結果はクラス平均56点だった。ただ、間違いもはね、線の長さの違いというものも多く、「あ、こんな間違いか」ということで、一回の再テストで、家庭環境的に厳しい6名の子以外は全員90点以上で合格した。
- ・1学期まとめの50問テストは平均78点だった。配慮の必要な子が10、20点台、もう1人が50点台だった以外は80～100点だった。50問テストの対策プリントは一切していない。普段の漢字学習と、子どもたちの自主学習のみ。練習量はそれほど多くないのにこの成績は驚きだった。50問テストは、全員が2回受ける。2回目は、空いているスペースに問題の解答である漢字を使った熟語を書けば、点をプラスするというのでやった。(土居正博氏の手法)その結果、一学期の最後の50問テストでは、配慮を必要とする子2人をのぞき全員100点以上で最高は274点。みんな大喜びだった。当初あった、市販のドリルを買わないでやるという不安は無くなった。

漢字の「書き」の指導で改善が必要な部分はあるが、開発した教材を使って取り組みれば確実に子どもたちの学力は高められるということは1学期の実践で十分実証できている。この成果に確信を持ち、2学期からの実践を、子どもたちと楽しく進めていただきたいと切に願う。

**次回研究会 12月26日(日)13:00～能登川コミセン の予定です。**